

此學校ノコトニ付キマシテ町村組合ハニヲ認メテアッテ、市ト町村ト組合シテ學校ノ經營ヲスルト云フコトハ認メテナカッタ、市制ノ方ガサウ云フヤウニ變ツタモノニアリマスカラ、自然ノ結果、學校ノコトニ付テモヤハリ市ト町村ト組合シテ、其經營ヲナスコトが出来ルト云フコトヲ認メルノ必要ガアリマス、今一例ヲ舉ゲテ見マスレバ、山口縣下ノ二田尻ハ今ハ町デアル、此三田尻町トソレカラ他ノ七箇村ト組合シテ周陽中學校ト云フモノヲ設ケテ居ル、是ハ今日ノトコロデハ町村ノ組合シテ設ケタル、然ルニ三田尻町ガ段々ト發展ヲ致シマシテ、他日之ガ市トナリマス、市トナリマシタ時ニハ、直ニ市ト町村トノ組合ヲ認メテ居リマセヌカラ、從來存在シテ居リマス組合ト云フモノハ自然消滅ニナッテシマヒマシテ、共同シテ學校ヲ經營シ維持スルコトが出來ナクナル、斯ウ云フ事情ニ陥リマス、故ニ今日ニ於テドウシテモ市ト町村トノ學校組合ヲモ組織スルコトが出來得ル途ヲ開ヒテ置キマセヌト云フト、段々ト今例ニ舉ゲマス三田尻町ノ如キ場合ト云フモノガ増加シテ來ヤウト考ヘマス、ソレ故ニ此途ヲ開キマス爲ニ第七條ニ於テ新ニ箇條ヲ設ケマシタ、即チ以上述ベマシタトコロノ三事項が今回新タニ加ヘマシタトコロノ事項ニアリマシテ、其以外ハ冒頭ニ述ベテ置キマシタ通り市町村制改正ノ結果、彼レ是レヲ斟酌致シマシテ、或ハ字句ノ修正ヲナシ、或ハ又條文ノ整理ヲ行ツタニ過ギマセヌ、尙ホ理由ノ詳シイコトハ私ナリ又ハ他ノ政府委員ヨリ御質問ニ應シテ御答致シマス。

○島田俊雄君 此場合、大體ニ付テ二點程大臣ノ御説明ヲ求メテ置キタイト思ヒマス、其一ツハ我國ノ現行ノ教育法令ノ全體ヲ通シテ見マスルト、教育ノ大方針ハ明治二十三年ノ教育勅語ニ依ア立テラレテ居ルト云フコトハ是ハマア何人モ疑ノナイトコロデアラウト信ジテ居リマス、其勅語以外ノモノニ付テ見マスルノニ、教育ノ法規ニシテ法律ノ形ニ規定セラレテ居ルモノハ甚ダ少い、少イト云フヨリハ此地方學事通則ト云フモノヲ除ク外ニハ、殆ド他ニナイト言シテモ宜イ位ナモノデアル、既ニ今御提案ニナシテ居リマス他ノ一ツノ實業教育ノ補助法ノ如キハ、法律デ規定セラレルノアリマス、ケレドモ、其以外ニハナイノアリマス、而シテ大學ニハ大學令ト云フモノガアリ、中學ニハ中學令、師範學校ニハ師範學校ノ規則ト云フヤウニ、キレハノノ學校ニ付テキレハノノ法則ガアッテ、其間ヲ統一シ、ソレ等ノモノニ通ズル根本ノ法則ト云フモノヲ見出スコトガ出來惡イヤウニ考ヘテ居ルノアリマス、此地方學事通則ト云フモノハ、既ニ御説明モアリマシタ如ク、舊き時代ニ制定セラレタモノニアリマシテ、地方ノ學事ニ關シテ完全不完全ト云フコトハ暫ク措イテ、免ニ角此法律ガアッテサウシテ此地方ノ學事ニ付テノ根本ノモノトナシテ居ルヤウアリマス、其他一般ノ國家全體ニ通ズル學制ノ根本法規ト云フコトニ付テハ無論御調查ニモナシテ居ルコトデアリマセウ、御計畫モアルコトデアラウト考ヘマスガ、是等ニ付テ何カ根本ノ法則ヲ設ケル法律ヲ以テ定ムル、通ジタル共通ノ法則ヲ定ムルト云フ御考ガアルヤ否ヤ、此點ニ付テ御聽キシテ置キタイト思ヒマス、ソレガ一ツアリマス、第二點ハ他ノ部分ニ於テモヨクアル行政上ノ弊害ト云ヒマスカ、或ハ習慣ト言ヒマスルカ、種々ノ規定ヲ法律ニ定ムベキ事柄ヲ勅令ニ譲リ、勅令ニ定ムベキ事柄ヲ省令其他ノ以下ノ法令ニ譲ルト云フコトハヨクアルコトデアリマスガ、教育方面ノ法令ヲ見マスルト殊ニソレガ多イ、今前ニ質問ヲ申上ゲマスル場合ニ申シマシタ大學令或ハ中學令ト云フヤウナモノモ、多クハ勅令ヲ出テ居ルト云フコトモ其一ツアリマス

ガ、ソレデナクテモ現ニ茲ニ出テ居リマス學事通則ノ中ニモ、勅令ニ其規定ヲ讓シテ居ル場合ガアルノミナラズ、重大ノ事柄ガ勅令ニ譲テ居ルノアリマス、例ヘバ第一條第二項ノ但書ノ如キ、第七條ノ第二項ノ如キモノハ重大ノ關係ヲ含ンデ居ルモノト思フ、唯今大臣ノ御説明中、學校組合ノ規定ヲ新設サレタト云フコトニアリマシタガ、此學校組合ニ就テモ勅令デ市制町村制ニ對シ別段ノ規定ヲ設ケルコトが出來ルト云フ、可ナリ重大ナル意味ヲ含シテ居ルモノガ勅令ニ譲シテアル、是ハ一面ニ立法上並ニ教育行政上モ注意スベキモノト思フ、同時ニ他ノ一面ニ於テハ此ノ如クスルハ洵ニ行政ノヤリ方トシテ法律ニ頭ダケヲ出シテ置イテ、後ノコトハ勅令ニ宜イ加減ノコトが出來、又勅令ノコトハ省令ニ譲ルコトが出來テ、所謂朝令暮改ヲシテモ法律ニ影響シナイト云フコトニナルノデアル、此ノ如キハ表面ヲ飾ルニ付テハ都合ガ宜イガ、實際ノ仕事ノ上ニ就テハ一定ノ主義方針ナクシテ、一方ニハ都合ガ宜イカ知ラヌガ、現行ノ教育法令ヲ知ル上ニ付テ一般ノ人民ハムヅカシイノデアル、教職ニ從事セラル、者ハ始終見テ居リマスカラ、之ヲ知ルコトハ困難デナイカ知レマセヌガ、一般ノ國民全體カラ云フト、此ノ如キ委任ノヤリ方バカリデハ洵ニ宜シクナイト云フヤウニ思フ結果、其弊害ガ此學事通則ノ上ニ於テモ既ニ現レテ認メラレテ居リハセヌカト思フノアリマス、又是ガ他ノ一方カラ觀察スルト、今日我國ノ學制ノ不統一、學制ノ不振ト云フ原因モ茲ニアリハセヌカト思フノアリマス、デ此教育法規ノ上ニ付テ勅令ニ規定ヲ委任シ、勅令ニ規定スベキモノヲ省令以下ノモノニ委任スルト云フ委任ノ方法ヲ多ク用ヒラレテ居ル趣意、何カ特殊ノ事情ガアレバ其特殊ノ事情ノ御説明ヲ願ヒタイ、例ヘバ彼ノ學務委員ノ規定ニ付テモ、學務委員ト云フモノハ勅令ノ小學校令ニ定メラレテ居ルガ、施行細則ノ中ニ學務委員ノ職務權限が規定セラレテ居ル、是ハ法律ノ規定デナイカラ不便デアレバ勅令ハ省令ニシ、省令ハ省議ニ依テ勝手ニ變ヘルコトが出來ルカラ、此學務委員ノコトノ如キ小學校令ニ規定シテアリマスガ、實際省令ノ結果ニ依シテ極スルコトが出來ルト思フノアリマス、是等ノ點ニ付テ勅令省令ニ委任スルト云フ根本法規ニ屬スルモノヲ委任スルト云フコトニ付テハ、特殊ノ事柄ガナケレバ御改メニナル方が宜カラウト思ヒマスガ、ソレヲ委任サル、ニ付テハ何カ特別ノ事情ガアルノアリマスカ、之ヲ伺ヒタイ、之ヲ要スルニ第一ノ點ハ此地方學事通則ヲ法律デ定メル以外、他ノ一般ノ學制ノ根本ニ付テ法律ヲ以テ設ケラル、意思アルヤ否ヤ、第二點ハ教育法規ノ如キハ全然勅令省令委任ノ形式ヲ有シテ居ルガ、此法規ノ重要ナ規定ヲ委任スルニ付キ弊害ガアルト思フ、此點ニ付キ當局者ノ御意見ハ如何デアルカト云フ、此ニ點ニ付テ御説明ヲ願シテ置キタイト思ヒマス

○文部大臣（法學博士奥田義人君） 御質問ハ詰リ一般ノ學制ヲ法律デ定メズニシテ命令ニ定メテ居ルノハドウカト云フモノニ歸スル御質問ト思ヒマス、是ハ法律ヲ以テ定メナケレバナラヌ事項ニ入シテ居リマセヌ、此教育上ノコトト云フモノハ即チ命令ヲ定メ得ル事項ニナシテ居リマス、嘗テ私ノ記憶シテ居ル處ニ依ルト、唯今御質問ニナッタヤウナ議論が生ジマシタコトガアリマシテ、法律ヲ以テ學制ヲ定メルガ宜イ、斯ウ云フ論が生ジタコトガアッタ時ニ、ソレハ慥カ議院デハナカッタ、政府部内デアッタ覺エテ居リマスガ、盛ニ論議サレタコトガアリマシタガ、結局教育ノコトハ憲法ニ依ル法律事項デモナイ、而シテ法律ヲ以テ定メナケレバナラヌト云フ理由ガ他ニ存在シテ居ルカト云ヘ決シテ存在シテ居

ラス、所謂命令ヲ以テ定メ得ル事項ニ屬スルコトデアルカラ、總テ教育ニ關スルモノハ大體命令デ定メテ、而シテ悉ク皆ナ樞密院ノ議ヲ經ナケレバナラヌ、斯ウ云フコトニナッテ今日マテ來テ居ルノデアリマス、サレバト言シテ法律デ定メルコトガ出來ヌ事項デアルカト云ヘバ、私ハ必スサウハ思ハヌ、定メテモ差支ナイト信シテ居リマスガ、法律デ定メナケレバナラヌ理由ガアルカト云ヘバ決シテナイノデ、既ニ今申シタ如ク初メカラ是ニ付テ論議ガアツテ、命令ノ範圍ニ屬スルモノデアルカラ命令ヲ以テ定メラレル、斯ウ云フ趣意ニ外ナラスト思ヒマス、殊ニ市町村制ヲ御覽ニナリマシテモ、市制ノ第一條ニ「市ハ法人トス官ノ監督ヲ承ケ法令ノ範圍内ニ於テ其ノ公共ノ事務並從來法令又ハ慣例ニ依リ及將來法律勅令ニ依リ市ニ屬スル事務ヲ處理ス」斯様ニ規定シテアリマス、即チ此中ニ教育事務ノ如キモノも入シテ居ルノデアリマス、教育ニ關スルコトハ小學校令ノ如キ命令デ之ヲ定メテ、此負擔三屬スルコトモ尙且市町村ニ命ズルコトガ出來得ルヤウニ市制ガ認メテ居リマス、或ハ市ノ一部ノ權利ヲ規定サレタ第七章ノ規定ヲ見テモ、最後ノ第百四十八條ニ「本法ニ規定スルモノ、外勅令ヲ以テノ定ム」斯ウ云フヤウニナッテ居ラテ、如何ニモ教育ノコトハ御承知ノ如クニナカト云、複雜ニ瓦ツテ居リマスルシ、種々改廢ヲ要スルモノガアツテ、一々之ヲ法律ヲ以テ極メルト云フコトハ實際ノ上ニ於テ甚ダムヅカシイコトデアラウト思フ、即チ法律ヲ拵ヘマシタコロ、ホンノ大體ノコトデ、而シテアトハ勅令委任ニナルヨリ途ハナイノデ、實際法律ヲ拵ヘテモ拵ヘマセヌテモ同ジコトニ陥ルヤウニ考ヘマスノデ、將來モ命令ノ範圍ニ屬スルモノトシ、殊ニ實際上カラ斯様ニ致シテ置クノガ宜カラウト云フコトデ、今日ニ至シテ居ルト思ヒマス、又法律ニ關スルコトガ或ハ大學令トカ中學令トカ種々ニナッテ居ラテ、一貫シテ居ラスト云フ御話アリマス、如何ニモ是ハ片々ニナッテ居ルヤウテアリマスケレドモ、自カラ此間ニ一貫シテ居ルノデアリマス、別々ナ命令ニハナツテ居リマスケレドモ、自カラ此間ニ一貫シテ居ルノデアツテ、是ハ唯一ツノモノニ纏シテ居ラスト云フダケノ話、一ツノモノニ纏シテ居ルト同シ系統ヲ以テ一貫シテ居ル、是ガ大學ノ爲メニ中學ノ爲メニ或ハ小學ノ爲メニト云フヤウナ譯ニ別々ニナッテ居ラタ云シテ、何モ格別ナ不便ヲ感ズルコトモアリマセズ、是ガ爲メニ學制上不統一ヲ來シテ居ルコトガアルカト申シマスルト、之ニ依シテ以テ不統一ヲ來シテ居ルト云フコトハ私ハ實際ニ於テナイト思ヒマス、サウ云フヤウナ譯アリマシテ、ツマリ意見ヲ異ニスル點ハ致シ方ガナイノデアリマスケレドモ、今日迄斯様ニナッテ居ル理由ヲ簡單ニ述ベマスルト、サウ云フヤウナコトニ外ナラヌノデアリマス

○島田俊雄君 大體御説明デ分リマシタガ、此命令委任ヲスルト云フコトハ、單ニ法律デヤラズニ勅令アヤルバカリヲ言ツタノデナイ、勅令ニ定メテアルモノヲ又省令ニヤル、是ハ能クアルコトハドウモ餘計多過ギルヤウニ思フノデアル、其點モ御聞キシタ譯アリマスガ、法律デ定ムキモノトカモノナイトカ云フコトハ別ト致シマシテ、命令ヲ以テヤツテ居ルト云フ點ニ付テハ、唯今ノ御説明ニ就テハ法律デ特ニヤラナケレバナラスト云フコトガナナイカラ、便宜上命令デヤリ來シテ居ルカラヤル、斯様ナ御答辯ニ承知シテ宜シウゴザイマスカ

○文部大臣(法學博士奥田義人君) 固ヨリ法律デ定メナケレバナラヌ事柄ハ、即チ法

律デ定メル、而シテ法律ノ中ニ餘リニ複雜ニ瓦リマシタ規定ヲ置クコトモ出來ナイカラ、斯ウ云フ今ノ七條ノ如クニ「勅令ヲ以テ市町村制ニ對シ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得」ト云フヤウナ意味ノ規定ト云フモノガ出來ル、是レバカリデナイン、多數アルコトハ御承知ノ通リテアルノデアリマス、私ノ考ヘテ居ルトコロニ依リマスルト、立法ノ當時ニ於キマシテ、是ハ命ニ令委任ヲスルト云フコトハ宜シクナイ、必ズ細カイコトマデ規定ヲシナケレバナラヌト云フコトヲ立法部ニ於テ御認メニナリマスナラバ、何モ必シモ是非トモ之ヲ命令ノ範圍ニ屬セシメテ貴ハナケレバナラヌト云フコトヲ私共決シテ主張シナイ、唯餘リ煩雜ニ瓦リマスカラ、煩雜ニ瓦ルヤウナコトハ命令ニ委任ヲスル方が便宜デアルト云フ趣意カラ彼處ニ命令ニ委任スルノ規定が出來テ居ルモノニアラウト思ヒマスカラ、何モ之ニ依シテ以テ勝手ナコトヲ行政部ニ於テヤラウト云フヤウナ趣意ハ毫頭無イト思ヒマス

○島田俊雄君 其點ハ議論ニナリマスカラ御説明デ満足ヲシテ置キマス、第一ニ私が御問シマシタ學事ニ關スル根本ノ法規ト云フコトニ付テハ御説明ハアリマシタガ、ソレハ從来ノ成行ニ就テノ御説明デ、從來斯ウ云フ風ニナッテ居ル、ソレデ不統一ヲ感シナイ、不便ヲ感シナイト云フ御説明デアリマシタ、ソレハ私モ承知シテ居ル、私ノ希望モ、大學令モ中學校令モ何モカモ一ツノ法典ニ纏メルト云フ意味デナイン、サウ云フモノヲ共通ニシターツノ原則ト云フヤウナモノガ立て得ルグラウカ、統一ヲ得ルト云ヘバ拵ヘレバ拵ヘルノデアル、唯今ノ大學ハ何年、中學ハ何年、其詳細ナコトハ勅令ヤ外ノモノニ譲シテモ、サウ云フモノハ共通ナモノが出來得ル、地方學事ニ付テ學事通則デ出來ルヤウニヤリサヘスレバヤリ得ル、ソレヲスル御考ガアルカドウカ、或ハ從來ノ通リテ満足シテ從來ノ通りヤツテ行ク御考デアルカト云フコトヲ確メテ置キタイ

○文部大臣(法學博士奥田義人君) 從來教育ノコトニ關シマシテハ、先刻述ベマシタ通リニ各種ノコトガ命令ニ由出テ居ルノデアリマスガ、其命令ノ趣旨ガ皆學事ニ關スルトモ法命令ノ上ニ一々規定スルコトノ出來ヌコトが多イ、例ヘバ教育ノ主義ト致シマシテ人格ヲ養成スルコトヲ本主義ニスルトカ何トカ云フヤウナコトハ、是ハドウモ法令デ定メルコトハ出來ナイ、詰リ教育ノ上ニ實際ノ活用上行フベキコトデアラウト思ヒマス、大體ノ體形ニ關スル事柄ハ今ノ命令デ原則ヲ定メラレルモノト認メテ居リマセヌ、將來ニ於キマシテモ私ハ目下ノ考デハ從來ノ通リテ差支ナシ、別段ニ特別ノ學制ト云フモノヲ作シテ、サウシテ今命令デ定メステ居リマスルヤウナモノヲ又改メテ法律ニスル必要ハナイン、斯様ニ考ヘル

○紫安新九郎君 文部大臣ニ御尋ラ致シマスガ、現行ノ地方學事通則ハ甚ダ備ラザル所多シト存シマシタガ、此改正案ニ依リマシテ其不備ヲ補フト云フコトハ洵ニ結構ナコトデアリマス、併ナガラ尙此改正法律案ニ對シマシテ疑惑ヲ懷キマスル點ニ付キマシテ御質問致シマス、現行ノ市制町村制ニ於キマシテハ、學區ヲ法人ト認メテ居リマセヌ、其認メテ居ラナイト云フ據所ハ、市制ニ於キマシテモ第六條ニ於テ「勅令ヲ以テ指定スル東京市、京都市、大阪市デゴザイマセヌ、故ニ現行ノ市制ニ於テハ學區ハ法人ト認メテ謂行政區アリマシテ學區デハアリマセヌ、故ニ現行ノ市制ニ於テハ學區ハ法人ト認メテ

居リマセヌ、所テ此改正法律案ハ學區ヲ法人ト認メテ居ルモト信ズルノアリマス、同一ノ學區アルノニ、一方ノ市制町村制ハ法人ト認メズ、此學事通則ハ法人ト認メルコトニナリマスレバ、國家ノ意見ガニ様ニ就テ第一ニ御意見ヲ承リタイト思ヒマス、ソレカラ第二ハ學區ノ財產處分ニ付キマシテハ、其財產ガ市町村ニ贈與セラレルトカ、或ハ寄附セラレルト云フコトニナリマスレバ、議論ハゴザイマセヌガ、之ニ反シマシタル場合ニ於キマシテ、學區ハ廢セラレテシマツク、併ナガラ財產ノミが殘ツタ云フ場合ニ於キマシテ、此法律ニ依リマシテ廢セラレタル學區ノ財產ヲ管理シ處分スルコトが出來ルノアリマセウカ、如何デゴザイマセウカ、ソレカラ第三ニハ財產ノ處分ト云フモノハ最セ重大ナル事件アルト考ヘマス、是が故ニ最後ノ決定權ハ行政裁判所ニ與ヘサセルノガ適當ト信ズルノアリマス、然ルニ之ヲ文部大臣ニ訴願致シマシテ、最後ノ決定權ヲ文部大臣ナサレルト云フコトハ適當デナイカト思フノアリマス、此點ニ關シマシテ御意見ヲ伺ヒタイノアリマス、ソレカラ又第四ニハ此法律案ニ依リマスルト、教育事務ノ爲メニ市町村ニ學校組合又町村ニ學校組合ヲ組織セラレルノアリマスガ、此市町村ノ學校組合ナリ町村ノ學校組合ニ付テハ、此文字ノ示シテ居リマスル通り、府縣ト云フモノハ別段眼中ニ置カナイデ、府縣ヲ異ニシテモ市町村組合、町村組合ヲ組織スルコトが出來ルノアリマスカ、以上ノ四點ニ付テ御意見ヲ伺ヒマス

○文部大臣（法學博士奥田義人君） 第一ハ學區ヲ法人ト看做シテ居ルト云フコトニ付テ御質問ノヤウデアリマスガ、法人ノコトニ付テハ誠ニ今日ノ法令ノ上ニ於テハ實ハ不明瞭ノ點が御承知ノ通り多イノデゴザイマシテ、例ヘバ寺院ノ如キモノニ致シマシテモ、之ヲ實際ニ於テハ慣例上法人ト認メテ居リマスケレドモ、民法ノ施行法ニ於テハ民法上ノ法人ニ關スルトコロノ規定ガニ適用セラレテ居ル、而モ寺デ以テ財產ヲ有スルコトモ許シテ居ル、斯様ニ相成ツテ居ル、區ノコトニ付テハ現ニ市制ノ第百四十四條ニ斯様ナコトガアリマス、市ノ一部ニシテ財產ヲ有シ又ハ營造物ヲ設ケタルモノアルトキハ其ノ財產又ハ營造物ノ管理及處分ニ付テハ本法中市ノ財產又ハ營造物ニ關スル規定ニ依ル但法律勅令中別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス」云々ト云フ 規定ガアル、學區ト云フモノハ學區ソレ自身が一般ノ法人ト同様ナ權能ヲ持ツモノデナイト思ヒマス、ケレドモ財產ノ關係ノ上ニ於テハ法人ト同シ權能ヲ解釋上持タシテ差支ナモノアルトキハ法律勅令中別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス」云々ト云フ 規定ガタメニ、第四條ヲ設ケサウシテ處分法ヲ定メタ、斯ウ云フ 譯アリマス、第四條カラ第二ノ點ハ處分ニ對シテ不服ノアツク時ノ訴ヘル途ガ行政裁判所ニ依ラズ、ソレカラ第一ノ點ハ學區ノ廢止ノ場合ニ於テ、其學區ノ有シテ居タコロノ財產ヲ寄附ラスルト云フヤウナ時ニハ——他ノ町村ニ寄附スルナント云フ 時ニハ一向差支ナケレドモ、寄附ノ意思が纏ラナカツタ時ニ、其財產ノ處分ハ如何ニスルカト云フコトノ御尋ノヤウデアリマスガ、ソレハ即チ今度第四條ヲ設ケマシタ所以テアリマス、其處分法ガ定メテナイガタメニ、第四條ヲ設ケサウシテ處分法ヲ定メタ、斯ウ云フ 譯アリマス、ソレカラ第二ノ點ハ處分ニ對シテ不服ノアツク時ノ訴ヘル途ガ行政裁判所ニ依ラズ、ソレカラ第一ノ點ハ處分ニ對シテ不服ノアツク時ノ訴ヘル途ガ行政裁判所ニ認メナカツカト云フコトノ御尋ノヤウニ承リマス、是ハ教育ニ關スル事柄アルニ依シテ、訴願ニ依シタ方ヲ穩當ト認メタニ過ギナイノアリマス、第四點ハ何故府縣ト市町村トノ間ノ組合ヲ認メナカツカト云フコトノ御尋ノヤウニ承リマス、タガ……

○紫安新九郎君 サウデハアリマセヌ、府縣ヲ異ニシテモ市町村組合、學校組合ヲ設立スルコトが出來マスカ

○文部大臣（法學博士奥田義人君） ソレハ府縣制ノ上ニ認メテ居ラヌノデス、他ノ府縣トノ間ノ組合ハタシカサウナツテ居ルト思ヒマス

○紫安新九郎君 更ニ大臣ニ伺ヒマスガ、此今度更ニ御設ケニナツク第四條デアリマスガ、第四條ノ最後デアリマスガ、府縣知事ノ處分ニ不服アル市町村又ハ學區ハ文部大臣ニ訴願致シマシテ、文部大臣ノ御決定が其學區ノ有シテ居タ財產ハ市町村ニ贈與セヨトカ寄附セヨトカ云フ御決定デアレバ論ハアリマセヌガ、若シソレニ反シマシタ御決定ガアリマシ時分ニ、學區ハ廢セラレタリ、財產ハ殘ツタ云フ場合ニ、其殘ツタ財產ヲ如何ニシテ管理シ處分スルコトが出來マスカト云フ御尋デアリマス

○文部大臣（法學博士奥田義人君） 是ハ府縣知事ノ處分ニ不服アル者ハ——主體ガナクナル場合ニ於テ、其儘財產ガ殘ルト云フコトハ有リ得ナイ譯デアル、無主物ニナッテシマウ、無主物ニナッテシマウカラ、民法ノ規定ニ依ツテ不動產ハ國家ノ物トナリ、動產ハ先占ニ依ツテ所有權が移ルト云フコトニナラナケレバナラズ、ドウシテモ廢スル時ハ其結果當然主體ガ無クナル、主體ノ無クナツタ財產ニ付テノ處分ハ府縣知事が定メナケレバナラズ、其處分ニ對シテ文部大臣ガ之ヲ寄附シテハナラズ、無主物ニシテ置ケト云フコトハ想像ノ出來メコトデアリマス、無主物ニシテハ民法ノ規定ノ適用ヲ受ケルト云フコトニナリハセヌカト思ヒマス、其邊ハ如何ナル御見解デアリマスカ

○紫安新九郎君 ドウモ私ノ考デハ「前項府縣知事ノ處分ニ不服アル市町村又ハ學區ハ文部大臣ニ訴願スルコトヲ得ト云フ規定カフ見レバ、大臣ノ決定が如何様ニ出ルカト云フコトハ豫メ測リ知ルコトハ出來ヌト云フコトニナリマスカ

○文部大臣（法學博士奥田義人君） 其結果が學區ヲ廢スルコトが出來ヌト云フコトニナルナツソレデ宜シイガ、從來ノ通リ學區ガ其財產ヲ持ツテ居ルト云フコトハ差支ハナイ、主體ガアル、然レドモ一方ニ區ハ廢シテ財產ハ其儘ニ置ケト云フコトハ理窟上出來ナイ、即チ無主物ト云フコトニナッテシマフト思ヒマスガ、如何デセウカ

○荒川五郎君 此市町村制デハ區ヲ設ケルコトヲ認メテ居リマスガ、今日ノ實際デハ市町村ヲ成ルベク一致ニシテ、自治ノ完全ニ行ハレルヤウニヤラウト云フコトガ目的デ、成ルベク此町村ノ如キハ其中ニ小町村ヲ設ケナイト云フ方針デヤツテ居ルノアリマスヤウニリマスカラ今日ノ合併町村ナドデハ獨立シテ學校ナドヲヤリタイト云フノガ多イニモ拘ラズ、成ルベク之ヲ縱令學校ヲ一町村ニ二校以上建テモソレハ町村ノ經濟トシテ居ル、サウシナイト自治が破レルト云フノデ、是ニハ實際ニ非常ニ力ヲ用ヒテ居ルノアリマスヤウニ思ツテ居リマス、然ルニ此學事通則デ公然學校ヲ設ケルト云フコトヲ認メルト云フコトハ、此市町村制ノ精神ノ上ニ於テ其實際ノ運用ノ上ニ於テ反對ノ結果ヲ來サウカト思ノアリマス、此點ニ付テ一應伺ヒマス

○政府委員（田所美治君） 御答イタシマス、御意見ノ通リテ市町村制ノ規定ハ市町村ヲ國家ノ自治體ノ一番小サイ團體ニ認メタル、其中ニ尙學區トカ或ハ部落トカ云フヤウナ法人ニ類スル區ヲ設ケルト云フコトハ、今御話ノ通デアリマスガ、然ルニ餘儀ナイモノニ對シテハ即チ在來ノ部落有ノ財產ヲ部落有デ經營スル際ニ對シテ、市町村内

ノ一部ノ區ヲ認メテ居シタ譯デアリマスガ、教育ノ方デ見マスト、モット通學區域ノ關係トカ、或ハ市町村制ヲ實施シマシタ當時カラ部落ヲ變更シテ町村ニシタヤウナ關係ガアルタメニ、尙教育上ノ便宜ノ通學區域ヲ定メマシテ、サウシテ此財產關係ナドモ見マシテ、小學校令ノ内ニ其方が便利ノ場合ニ於テハ、詰リ市若クバ町村ヲ區割シテ數區トノデアリマス、是ハ唯今テ申シテ見マスト全國ニ數千區ガアリマスガ、即チ學區ト云フモノハ多クノ場合ニ於キマシテハ當初カラ便宜ノタメ設ケタモノデアリマスカラ、通學ノ關係トカ云フモノヲ主モニ見マシテ、是ハ普通ニハ其便宜ニ基テ特ニ認メテ居ルノデアリマス、是ハ特例ヲ市町村制ニ對シテ開イタノデアリマスガ、其關係ガ主ニナツテ地方學事通則が出來テ居ルノデ、是レアルガタメニ荒川君ノ御尋ノ市町村制ノ内ニ小法人ヲ作シテ統一シテ行クト云フ自治ヲ打壊ハスト云フ當初カラ考ハナカツタノデアリマスガ、餘儀ナク教育上ノ便利ノタメ分割ヲ命ズルノガ便利ト考ヘタル時ハ、サウ云フ特例が出來ルトシタノデアリマス、此事ニ付テ今日マテ實地ノ經驗ニ考ヘテモ其途ハ存置シテ行クト方が宜イト考ヘタノデアリマス、唯今日問題ニナリマスノハ、前年ハ大層便宜ト認メテ區劃ヲ致シタモノヲ、其後ノ市町村ノ發達ノ狀況或ハ交通ノ關係ノ變更等ニ基キマシテ、統一ヲスル方ガ利便デアル、斯ウ云フモノニ對シテハ「區ヲ廢シヤウ、斯ウ云フ時ハ財產處分ノ規定ガナ」イタメニ行キ詰シタ、即チ荒川君ノ御尋ノヤウニ、市デヤルトカ市町村デヤルト云フ場合ニ於テ、行キ詰リノ點ガアル、之ヲ四條ニ於テ財產處分ノ規定ヲ置キマシトノデ、學校ヲ廢止スルト同時ニ財產處分ノ規定ヲ具ヘ、サウシテ便宜ヲ若シ府縣知事郡長ニ於キマシテ學區ヲ廢シテ統一スル方法が宜イト云フ場合ニハ、頗ル便宜ヲ得ルヤウニ四條ヲ設ケタノデアリマス、區ヲ分ケマシテ又區ヲ統一スルコトニ付テハ、地方ノ全ク便宜ニ委スル、從來ノ通りアリマス

○政府委員(田所美治君) 其場合ニ於テハ必要ハアリマスマイト思ヒマス、郡ヲ一學區ト云フコトハ、即チ郡ノ事業ニナルカラ、郡ニ分割スル必要ハナイノデアリマス

○荒川五郎君 此勅令案が出來テ居リマスレバ参考ニ御廻シヲ願ヒタイ

○政府委員(田所美治君) 今ノ御尋ハ此各條ニゴザイマス勅令案デアリマスカ

○荒川五郎君 私共ハ實際ニ非常ニ困ルト思フノハ、今日テモ合併町村ガアリマシテ、ソレニハ在來ノ學校ハ即チ營造物ヲ持テ居リマスカラ已ムヲ得ズヤシテ居ルケレドモ、ソレガアルガ爲メニ、例ヘバ他ノ區ノ學校ニ行ク方が便利ガ宜イケレドモ、ソレガアルタメニ行カレナイ、遠イ學校へ行カケレバナラヌト云フ不便が多イ、ソレガ町村制ニ依テ自治ノ團體デ學校ヲ經營スレバ近イ便利ノ所ヘ行カレル、ソレガ仕來リテ困シテ居ルカラ、ソレガアルガ爲メニ、例ヘバ他ノ區ノ學校ニ行ク方が便利ガ宜イケレドモ、之ガ今迄公ケニ認メテナカッタガ、區ガ茲ニ法文上三定メラレル以上ハ、サウ云フコトノ實際ノ扱ヒ方ニ付キテハ極力ニ必要ガアラウト思フ、若シ他ノ箇條モ出來テアリマスレバ、學區ヲ設ケルニ付

テノ勅令案が出來テ居リマスレバ此際御廻シヲ願ヒタイ

○政府委員(田所美治君) 第一條ノ「市町村制ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ教育事務ノタメニ、尚教育上ノ便宜ノ通學區域ヲ定メマシテ、サウシテ此財產關係ナドモ見マシテ、サウシテ其學區ノ維持經營ハ其區ノ負擔トスル、斯ウ云フコトノ途ヲ當初開イタノデアリマス、是ハ唯今テ申シテ見マスト全國ニ數千區ガアリマスガ、即チ學區ト云フモト尙一町村ヲ分割シテ數區トナシテ、其經營ヲ其區ニヤラセルト云フコトハ便宜ノ場合ニ於テ、府縣知事若クバ郡長ニ於テ其區ヲ學區ヲ創設スルコトヲ許シマシタノデアリマス、是ハ特例ヲ市町村制ニ對シテ開イタノデアリマスガ、其關係ガ主ニナツテ地方學事通則が出來テ居ルノデ、是レアルガタメニ荒川君ノ御尋ノ市町村制ノ内ニ小法人ヲ作シテ統一シテ行クト云フ自治ヲ打壊ハスト云フ當初カラ考ハナカツタノデアリマスガ、餘儀ナク教育上ノ便利ノタメ分割ヲ命ズルノガ便利ト考ヘタル時ハ、サウ云フ特例が出來ルトシタノデアリマス、此事ニ付テ今日マテ實地ノ經驗ニ考ヘテモ其途ハ存置シテ行クト方が宜イト考ヘタノデアリマス、唯今日問題ニナリマスノハ、前年ハ大層便宜ト認メテ區劃ヲ致シタモノヲ、其後ノ市町村ノ發達ノ狀況或ハ交通ノ關係ノ變更等ニ基キマシテ、統一ヲスル方ガ利便デアル、斯ウ云フモノニ對シテハ「區ヲ廢シヤウ、斯ウ云フ時ハ財產處分ノ規定ガナ」イタメニ行キ詰シタ、即チ荒川君ノ御尋ノヤウニ、市デヤルトカ市町村デヤルト云フ場合ニ於テ、行キ詰リノ點ガアル、之ヲ四條ニ於テ財產處分ノ規定ヲ置キマシトノデ、學校ヲ廢止スルト同時ニ財產處分ノ規定ヲ具ヘ、サウシテ便宜ヲ若シ府縣知事郡長ニ於キマシテ學區ヲ廢シテ統一スル方法が宜イト云フ場合ニハ、頗ル便宜ヲ得ルヤウニ四條ヲ設ケタノデアリマス、區ヲ分ケマシテ又區ヲ統一スルコトニ付テハ、地方ノ全ク便宜ニ委スル、從來ノ通りアリマス

○政府委員(田所美治君) 其場合ニ於テハ必要ハアリマスマイト思ヒマス、郡ヲ一學區ト云フコトハ、即チ郡ノ事業ニナルカラ、郡ニ分割スル必要ハナイノデアリマス

○荒川五郎君 此勅令案が出來テ居リマスレバ参考ニ御廻シヲ願ヒタイ

○政府委員(田所美治君) 小學校ニ付キマシテハ御承知ノ如ク小學校令ノ規定ニ依リマシテ、市町村が義務トシテ此費用ヲ負擔シテ設置維持スルト云フコトガ原則ニ唯ハナツテ居リマス、サウシテ一市町村テ資力が足リマセヌ場合ハ、數箇町村ガ聯合シテ學校ヲ置ク、即チ本令ノ第七條ニ依リマシテ數町村聯合シテ學校組合ヲ設ケテ、サウシテ一小學校若クバ數小學校ヲ設置維持スルコトニナツテ居リマス、郡若クバ縣ガ小學校ヲ設置スルト云フコトハ、唯今ノ法令ノ下ニハ認メテ居リマセヌノゴザイマスガ、今荒川サンノ御尋ノ如ク、郡内ノ總チノ町村ガ聯合シマシテ、ソレガ學校組合トナツテ小學校ヲ設置維持スルコトが出來ルモノノデアリマスカラ、其場合ニ於キマシテハ郡内ノ總町村ノ組合ノ聯合ニナラウト思ヒマス

○荒川五郎君 ソレカラ此第三條ノ中ニモアリマスガ、此市町村制ハ市ノ基本財產ヲ以テ市町村ヲ維持スルト云フノが原則ニナツテ居ル、ソレガイケナイ場合ニ租稅ヲ取ルト云フコトガ市町村制ノ原則ニナツテ居リマス、然ルニ第三條ニハ市町村稅ヲ納ムルモノ、負擔ト云フコトニ主トシテ、ソレカラ財產ヨリ收入ナドカアル時分ニハソレヲ以テ充ルト云フコトニナツテ居リマス、是ハ町村制ノ第七條ニ市ノ一部ノ事務ト云フモノモ財產ヲ本トシテヤツテ居リマスカラ、是ト同ジャウニ行クト云フコトニナレバ、其財產カラ出ルモノヲ以

テ先トスルノが當リ前ト思フ、是ハ反對ノ規定ニナツテ居ルヤクニ思ヒマスガ、如何デスカ
○政府委員（田所美治君） チヨット荒川サンニ伺ヒマスガ、市町村ニ於テハ基本財產ヲ設ケルト云フコトガ本體ニナツテ居ル、然ルニ收入ガアレバ是ハ其收入デ補足セイト云フ規定ガアルカラ、町村ノ負擔ノ原則ガ違ツテ居ルナイカト云フ御問デゴザイマスカ
○荒川五郎君 基本財產ノ收入ヲ以テヤルト云フノガ原則デ、租稅ヲ課スルト云フノハ例外ノ規定ニナル

○政府委員（田所美治君） 此第一條ノ基本財產等ニ關シマシテハ、市ノ財產營造物ニ關スル規定、町村ノ營造物ニ關スル規定が、此學區ニ悉ク準用スルコトニナツテ居リマス、第一條ニ市ノ財產營造物ニ關スル規定、町村ノ財產營造物ニ關スル規定ト、斯ウゴザイマスノデ、丁度基本財產ノ維持ノコトハ市制デ申シマスルト百九條デアリマスガ、ソレハ學區ニ皆準用致ス考デアリマス、三條ハ負擔ノ原則ハ町村デモ斯ウナツテ居リマス、今日或ル町村ニ於キマシテハ稅ヲ一文モ取ラナイデ、財產收入ダケデ町村ノ經營ヲヤッテ居ル所ガアリマス、第一條ニ丁度御尋ノ基本財產ヲ設置維持シテ行クト云フ、斯ウ云フノハ總括的ニ市町村ノ財產營造物ニ關スル規定ヲ準用スルト云フコトデ、區ニ適用スル考デアリマス

○荒川五郎君 唯今ノハ少シ私ノトハ達ヒマスルガ、ソレハ措キマシテ私ハモウ一ツ御問シマス、第六條ニ「學務委員ヲ置クヘシ」トアリマス、此法律ニハ學務委員ヲ置クベシト云フコトガアッテ、其學務委員ノ仕事が更ニ極ツテ居ラズ、學務委員ノ仕事ニ關スルコトハ勅令ニ譲ルトカ、此處ニ定メルトカ云フコトガナケレバ、此法文ヲ爲サヌト考ヘマスガ、如何デスカ

○政府委員（田所美治君） 第六條ニハ斯ウ云フ書方デ勅令ニ委任スルコトニナツテ居リマス、即チ「市町村ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ學務委員ヲ置クヘシ」「學區ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ學務委員ヲ置クコトヲ得」ト斯ウゴザイマシテ、此勅令ノ定ムル所ニ依ルト云フ文字ハ、其任務ニ關シマシテハヤハリ勅令デ規定シ得ル考デアリマス、六條ノ勅令ノ定ムル所ニ依ルト云フコトデ、小學校令ニ職務權限ハ規定致シテ居リマス、島田俊雄君 私モ一二三點御尋ラシマス、現行ノ學事通則ニ依リマスト、圖書館ノコトモ中ニ這入シテ居リマス、即チ九條ニ財產ノ關係ノコトニ付テアリマス、此改正案ニハ圖書館ノ設ガ一ツモ見エマセヌガ、是ハ若シ區域外ニスルト云フコトデアレバ、圖書館ニ付テハ何カ別段ニ規定デモ設ケル御考デアリマスカ

○政府委員（田所美治君） 御尤ナ御尋テアリマスガ、此今度ノ地方學事通則改正ノ趣意ハ、大臣カラ申上ダラレタ通りゴザイマスガ、圖書館ハ現行ノ圖書館今デハ市町村ハ出來マスガ、區ハ圖書館ヲ立ルコトガ出來ナニコトニナツテ居リマス、此御尋ハ丁度第三條ノ學校幼稚園ニ聯係シテ居ルコトカラ御考デゴザイマセウガ、學區ニ於キマシテハ圖書館ノ設置マデハサセナクテモ宜カラウト云フ考デアリマス、學校幼稚園位ノ設置ノ權能ヲ與ヘテ置キマシテ、即チ現行ノ通リノ主義デ宜カラウカト考ヘテ居リマス、ソレ故ニ圖書館ノコトハ學區ニ關シテハ書カナカツタノデアリマスルガ、御尋ノ點ハ廣イ意味ニ於テ圖書館ノコトハドウスルカト云フコトデゴザイマスト、ソレハ圖書館令其他ノ法律デ動キマス

ス

○文部大臣（法學博士奥田義人君） 私が説明シナクテモ宜イデアリマスガ、丁度午後ハ多分此委員會ハ繼續ニナルコト、考ヘマスガ、午後ニハ司法省ノ所管ノ戸籍法ノ委員會ガアリマシテ、ソレニ出席ヲ致サケレバナリマセヌノデ、便宜此處ニ委員長ニ御願ヲ致シテ、實業教育國庫補助法改正案ノ大體ニ付テ一應述ヘテ置キタイト思ヒマス、此現行法ノ實業教育國庫補助法ハヤハリ制定ハ古イモノデ、業ニ既ニ今日デ二十年モ経過致シテ居リマス、所が段々時勢ノ進運ニ伴ヒマシテ、施行以來ノ實績ニ徵スルニ、ヲ致シテ、實業教育國庫補助法改正案ノ大體ニ付テ一應述ヘテ置キタイト思ヒマス、今其重要ナル點ヲ舉ゲマスルト、現行法ニ依レバ是等ノ實業學校ハ補助金ヲ受ケキ實業學校ハ公立ノモノニ限シ、唯一ツ例外ガアルダケテアル、例外ト云フノハ監督官廳ノ認可ヲ經タ農工商組合ニ於テ設置シタ實業學校ハ、文部大臣特別ノ認定ニ依リ之ニ準スルコトヲ得、即チ公立學校ニ準シテ補助ヲ與ヘルコトガ出來ルト云フ例外ガアルバカリデアリマス、然ルニ今日實業教育ノコトハ、是カラ先キモ公立ノ學校ダケニ限ルト云フコトニ致シテ置キマシテハ、到底十分ニ此教育ノ獎勵ノ趣意ヲ達スルコトガ出來マセヌ、殊ニ地方ノ教育費ハ追々膨脹致シマシテ、段々ト整理ヲシテ之ヲ減少スルヤウニ致サケレバナラヌ方針ヲ執シテ居ル次第デアリマスカラ、別レテ公立ノ學校ノミニ依テ以テ實業教育ノ獎勵ヲ圖ルコトハ困難シテモ、必要ニ應シテ補助ヲ與ヘテ獎勵ヲシタイト云フヤウノ趣意デアリマス、今日此實業學校ト稱スルモノ、數ハ、御承知デモアリマセウガ補習學校ヲ除イテ五百十五アリマス、其中公立ニ屬スルモノガ四百七十四校、私立ガ四十一校アリマス、補習學校ハ全國ヲ通ジテ七千九百五十九校アリマス、斯ウ云フヤウニ段々發展シテ來マシタケレドモ尙決シテ十分デハナリ、益々獎勵シテ行カネバナラヌ時運ニ向シテ居リマスカラ、私立ノ實業學校ニモヤハリ補助金ヲ交付シテ獎勵シタイト云フノガ改正ヲ要シマス點デアリマス、ソレカラ次ニハ現行法ニ於テハ一定ノ期間經常費ニ對シテノミ補助ヲ與ヘルコトニナツテ居ルノデ、臨時費即チ設備費ニ要スル費用等ハ補助スルコトガ出來ヌ原則ニナツテ居リマス、ケレドモハ或學校ニ於テ器械ヲ購入シナケレバナラヌ、圖書ヲ購入シナケレバナラヌ又ナ設備費、其一時的ノ臨時費ニ對シテモ補助ヲ與フルコトガ出來得ルヤウニシテ置キマスルノハ、實業教育獎勵ノ上ニ最モ必要ダト考ヘマス、從ツテ又本案ニ於テハ用途ヲ指定シテ、此ノ如キ補助ヲモ與ヘルコトガ出來ル途ヲ開キマシテ、ソレカラ次ニハ現行法ニ依レバ補助ノ期間ガ一期五年トナツテ居リマス、之ヲ從來ノ實績ニ徴スルニ、學校經濟等ノ狀態如何ニ拘ラズ、五年間固定シテ一定ノ補助ヲ與ヘルコトハ長キニ失スル感ガアリマス、故ニ一期ヲ二年トシテ、三年毎ニ補助ヲ更新シ得ルヤウニシテ、學校ノ實際ノ狀態ニ適應セシムル、斯様ナ途ヲ開キマシタ、次ニ現行法ニ依ルト經常費ニ對スル補助ハ學校設立者ノ負擔額ヲ超ユルコトガ出來ヌ、例ヘバ千圓設立者が負擔スレバ千圓以上ノ補助ヲ與フルコトハ出來ナニ、其範圍内ニケレバナラヌ原則ニナツテ居ル、然ルニ實業補習學校ノヤウナ小規模ノモノニアルト、他ノ學校トハ事情ヲ異ニシテ、其様ナモノニ對シテハ一般ノ原則以上ニ補助ヲ與フルコトガ出來ルヤウナ途ヲ開キマセヌト、實業補習學校ノ獎勵ヲ爲スコトハ出來マセヌ、固ヨリ補習學校ハ先キニモ述べマシタ通リ七千九百五十九校モアル多數ノ學校デアリマスカラ、是等ニ向シテ大

多數補助ヲ與ヘルヤウナコトハ、事實不可能ナルコト論ヲ待チマセヌケレドモ、其中ノ模範トナルベキ學校ニハ出來ルダケノ補助ヲ與ヘテ獎勵シタイト思ヒマスル、即チ規模が小サイモノデアリマスルシ、又實業補習學校ナド建アマスル例ヘハ町村等ニ於テ、資力が貧弱デアルト云フヤウナ時ニ於テ、負擔額以内ニ於テノミ之ガ補助ヲ與ルト云フヤウナコトハ、甚ダ獎勵ノ上ニ於ケル趣意ニ副ハヌヤウニモアリマスルノデ、茲ニ例外ノ範圍ヲ廣ク致シマシタ、次ニハ現行法ニ依ルト、實業學校ニ對スル補助ノ外、實業學校教員養成ノタメニ一定ノ金額ヲ支出スルコトが出來ルヤウニナツテ居リマス、其故ニ其規定ニ基イテ今日ノトコロデハ、或ハ農科大學ニ於テ農業教員養成所ヲ附設致シ、東京商業學校ニ於テハ商業教員ノ養成所ヲ附設致シ、又工業學校モ同様ノ附設ヲミテ居ルト云フヤウナコトヲナシテ居リマス、然ルニ諸國ノ實業教育ノ實際ナドヲ調査シテ、印刷ニ付シテ参考ニ配ヅテヤリタイト思ヒマシテモ、ソレ等ノ費用ヲ支出スル途がナインデアリマス、ソレデ改正法案ニハ金額ノ制限ハ從來ト變ラズ 卽チ豫算總額ノ八分ノ一位ノ範圍内ニ於テ、實業教員ノ養成費及ビ教育獎勵ノ上ニ於テ、今御詫スル如ク出版物ナドヲ出シテ参考ニ供スルヤウナ必要ノアルトキニ、ソレ等ノ費用ヲモ支出スルコトノ出來ルヤウニ致シマシタト云フノガ改正ヲ要スル一點ニアリマス、今述ベテマシタ 諸點が此法律ノ改正ヲ認メタ理由ノ重ナルモノデアリマシテ、其以外多少改正ヲ行ツテ居ルトコロハアリマスケレドモ、要スルニ文字等ノ修正三外ナラヌコトアリマスルノデ、煩ヲ避ケテ茲ニ述ベマセヌ

○島田俊雄君 私ハ此場合一點附加ヘテ御説明ヲ願ツテ置キタイト思フノデアリマス、此實業教育國庫補助改正ノ法律案ノ眼目トスベキ點、即チ私立學校ニモ補助金ヲ與ヘル方法ヲ開カレタト云フコトハ、頗ル宜シイ改正ニアリマシテ、大ニ贊成ヲシテ居ル次第デゴザイマスガ、之ニ付キマシテハ此法律ニ何等ノ規定モアリマセガ、無論相當ナ方法ヲ講セラルルコト、思ヒマスケレドモ、一面ニ於テ補助金ヲ與フルト同時ニ、他ノ一面ニ於テ私立學校ノ會計等ノ監督ヲスル必要が自然起シテ來ルト考ヘルノデアリマス、從來補助金ヲ與ヘナイ場合デモ、學校ノ經營者ノ經濟振リニ付テノ御監督ハアルベキモノト考ヘテ居リマスガ、ソレ等ノ事ハ如何様ニナツテ居ルカ、又此法律實施ノ場合ニ於テハ、如何ナル方法ヲ以テ私立學校等ノ會計上ノ監督ヲセラレル御考デアルカ、ソレ等ニ付テノ大體ノ御腹案デモゴザイマスナラバ、從來ノ事ト共ニ御説明ヲ願ツテ置キタイト思ヒマス

○文部大臣（法學博士奥田義人君） 私立學校監督ノコトハ固ヨリ文部大臣ノ職權ニ屬シテ居ルコトアリマスカラ、從來モ出來得ル限リヤシテ居リマス、而シテ此法律實施ノ後ニ、私立學校ニ補助金ヲ與フルコトニ相成リマシタ場合ニ於テハ、時々監督員ヲ派遣致シマシテ、會計帳簿等ヲ取調べテ、苟モ不都合ノナイヤウニスルト云フ積リアリマス、ソレニ對シテノ制裁ハ第六條「主務大臣補助ヲ受クル學校ノ管理不適當ナリト認メタルトキ又ハ其ノ學校主務大臣ノ定ムル規程ニ違背シ第五條ノ義務ヲ盡サス若クハ補助ノ條件ニ違反シタルトキハ補助ヲ廢止シ又ハ停止シ又ハ補助金ヲ減少スルコトヲ得」ト云フコトガアリマス、仍テ時々監督員ヲ派遣シテ検査ヲ施シテ、其場合ニ於テ或ハ管理ガ不適當ナリト認メ、或ハ補助ヲ與ヘタ時ニ定メタ所ノ條件ニ違反シタ事柄ガアルト

云フヤウナトキニハ、即チ此箇條ニ依テ將來ニ向シテノ補助ヲ何時モ廢止スル或ハ停止スルト云フコトニスル積リアリマス、其條件等ノコトハ未ダ十分審議ヲ致サズニ居リマスケレドモ、此法案ヲ實施スルマデノ間ニハ十分ニ審議ヲ遂ゲテ定メル積リアリマス
○島田俊雄君 唯今御答出來ヌカモ知レマセヌガ、現行ノ補助ノ法が行レマシテカラ今日マテ、國庫カラ支出シテ實際補助セラレタ金額ハ總計ドノ位ニナツテ居リマス、以前ハ二十五万圓ト云フ時代モアツタデス、最初カラ今日マテ補助シタ金額ヲ總ヲ書イタモノアリマスガ、近頃ニナリマシテハ變リマシテ、毎年豫算ヲ以テ定メ補助スル計シテ幾フニナルカト云フコトハ、一寸今御答出來兼ネマス
○委員長（法學博士戸水寛人君） 御相談シマスガ、モウ十一時ニ近イデスガ、質問ガ澤山アリマスナラバ午後ニ延バストカ、或ハ外ノ日ヲ極メタラドウデス
○政府委員（松浦鎮次郎君） 補助法制定以來デスカ——是ハ舊トノ法律ニハ金額ヲ書イタモノアリマスガ、近頃ニナリマシテハ變リマシテ、毎年豫算ヲ以テ定メ補助スルマス、以前ハ二十五万圓ト云フ時代モアツタデス、最初カラ今日マテ補助シタ金額ヲ總計シテ幾フニナルカト云フコトハ、一寸今御答出來兼ネマス
○委員長（法學博士戸水寛人君） 御相談シマスガ、モウ十一時ニ近イデスガ、質問ガ澤山アリマスナラバ午後ニ延バストカ、或ハ外ノ日ヲ極メタラドウデス
○委員長（法學博士戸水寛人君） フレデハ今日ハ是デ措キマシテ、六日ノ午前十時カラ開クコトニ致シマス
〔モウ一回御開キナツテハ如何デス」と呼ブ者アリ〕

午後零時一分散會

大正三年三月六日印刷

大正三年三月七日發行

衆議院事務局

印刷者 印刷局